

テーマ

完成したシステムが、  
 こんなはずじゃなかった とならないために。

～ 開発過程の可視化 ～

開発の過程を、逐一チェックできるWebサービス。  
 早稲田システム開発では、実施の検討を始めました。

昨

年末から今年にかけて、日本中を揺るがした耐震強度偽装事件。過熱気味の報道では「構造計算書」が大きくクローズアップされました。素人目には何のことかわからない専門的な書類だけに、購入者には対処のしようがありません。加えて、たとえ書類が正しいとしても、工事現場で鉄筋やコンクリートを減らされていたら...。せめてもの自衛手段として、最近では、休日を利用して建築中の自宅の様子を頻繁に見に行くという人もいますか。

モラルの話はさておき、こと「事前の確認内容と書類、あるいは納品物に差異が生じる危険性」だけ取り出すなら、情報システム会社も他人事ではありません。そこで、考えてみました。「開発中のシステムをインターネット上に関係者に公開して、途中段階をチェックできる環境を作れないか？」  
 でき上がった後で「こんなはずじゃなかったのにならないうための、Webコミュニケーション。安心感はもちろん、その場で調整を加えていけることを考えると、これも「アジャイル開発」と言えるのではないのでしょうか。

用語 アジャイル開発

英語で「俊敏な」「すばやい」という意味。効率的で柔軟なシステム開発の手法を総称してアジャイル開発と言います。



【イメージ】住宅建築とシステム開発の比較



このフロー図はイメージであり、すべてのシステム開発に、このまま適用できるわけではありません。実際の開発にあたっては、弊社担当にお問い合わせください。